

第3章 多摩区の魅力

伝統・文化



菅の獅子舞

薬師堂で毎年9月に行われている伝統行事です。五穀豊穡や疫病退散を祈願するもので、平成13年2月に県指定無形民俗文化財に指定されました。



射的祭

五穀豊穡や地域の安全を祈願して行われる伝統行事です。射的祭は長尾神社の「マトー」と子之神社の「オマト」があります。(写真は長尾神社の「マトー」)



川崎市伝統工芸館

川崎市の紺屋の技術を受け継ぎ、伝統的な「本藍染め」の技術を伝えていくことを目的として、昭和58年に開館しました。



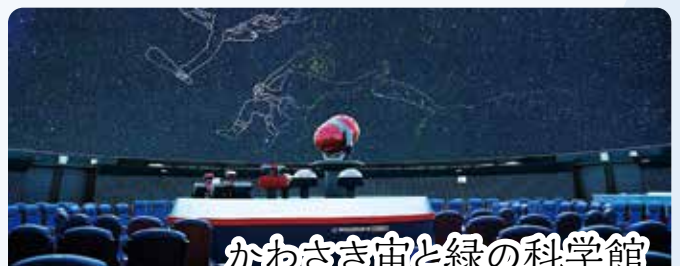
川崎市立日本民家園

日本を代表する25の古民家などを集めた野外博物館。四季折々の雰囲気味わえるイベントも開催しています。



川崎市岡本太郎美術館

本市にゆかりのある芸術家・岡本太郎の作品を肌で感じることができる「体験型展示空間」をコンセプトとする美術館です。気軽に参加できるワークショップなども開催しています。



かわさき宙と緑の科学館

本物の星空のような臨場感を体験できるプラネタリウムや昆虫や野鳥などの標本を展示しているなど、自然・天文・科学の各分野で体験が楽しめます。



川崎市多摩スポーツセンター

広大な敷地に体育室や武道室、プールなどの施設を完備しています。施設の提供や各種スポーツの教室を実施しています。



川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム

多摩区に長年住み、『ドラえもん』などの多数の名作を生みだした藤子・F・不二雄氏の作品世界やメッセージを幅広い世代に伝えていく文化施設です。

自然



多摩川

山梨県甲州市(旧塩山市)の笠取山に水源を発し、途中、多くの支流を合わせて、東京都と神奈川県を流れ、東京湾に注ぐ全長138kmの一級河川です。



三ヶ領用水

江戸時代に建設された全長32kmにも及ぶ人工用水です。これまで川崎の発展を支えてきた用水路で、宿河原周辺では桜の名所として知られています。



三ヶ領せせらぎ館

平成11年3月に開館した同館では、多摩川の防災、環境、歴史、文化に関する情報を発信しています。多摩川流域の衛星写真や資料、多摩川に生息している魚の水槽も展示されており、季節ごとにさまざまなイベントも開催しています。



稲田公園

昭和46年に開園され、少年野球場、せせらぎ、児童プールなどの施設が整備されており、地域住民の憩いの場となっています。また、園内には川崎市防災備蓄倉庫も設置されています。



農業技術支援センター

平成20年にフルーツパークから農業技術支援センターに名称が変更されました。果樹や野菜、花木の試験農場で、四季折々の花や果物が鑑賞できます。市内で生産された梨とぶどうの品評会も開催しています。



緑化センター

昭和54年に川崎市で唯一の「都市緑化植物園」として開園し、園内はたくさんの草花で彩られ、四季折々でさまざまな植物を楽しむことができます。また、緑の相談や講習会など市民が緑に親しむための支援も行っています。



のらぼう菜

多摩区の伝統野菜で、菅地区では約800年前から栽培されています。また、農業技術支援センターで約10年の研究を重ね、2019年に新品種「川崎市農技1号」が誕生しました。新品種の名前とロゴマークを公募し、愛称は「かわさきつや菜」に決定しました。



生田緑地

昭和16年3月に川崎市都市計画緑地第1号として決定しました。昭和39年度から公園施設の整備を進めています。緑地内にはクヌギやコナラを中心とした雑木林や谷戸部の湿地、湧水など首都圏を代表する緑豊かな自然環境が残されています。



生田緑地ばら苑

昭和33年に小田急向ヶ丘遊園内に開苑しました。平成14年の小田急向ヶ丘遊園の閉園に伴い、市が管理を引き継いだ施設です。約1.5haの苑内には世界各国のバラを育成しており、平成30年には日本ばら会の認証を得て、春は約800種、秋は約620種の品種を確認しました。バラの開花時期に合わせて春と秋に一般公開を実施しています。



多摩川梨

川崎市や稲城市を中心に多摩川流域で収穫される梨の総称を「多摩川梨」といいます。川崎が発祥地といわれる「長十郎」をはじめ、現在は「幸水」や「豊水」などさまざまな品種があります。

歴史



小沢城跡

川崎市の西北端、東京都稲城市の市境を接する丘陵上に位置しており、この地は鎌倉道が通る交通の要衝で、多摩川の広い低地や河原をひかえていたため、鎌倉時代から戦国時代にかけてたびたび合戦の舞台となりました。



薬師堂

文治3(1187)年に鎌倉時代の武将である稲毛三郎重成が亡妻の供養のため建立したと言われています。境内にある土俵では「菅の獅子舞」と同じように古くから相撲が行われています。



長念寺

縁起によると大永2(1522)年に創建された寺院で、本堂・書院(旧庫裏)・山門が大変優れた建物として評価が高く、平成2(1990)年に市の重要歴史記念物に指定されました。



光明院

江戸時代に何度か火災に見舞われましたが、室町時代後期に源空法印によって開かれたといわれています。市の重要歴史記念物に指定されている「木造不動明王及び二童子像」が安置されています。



子之神社

天正18(1590)年、豊臣秀吉の小田原攻めの際に兵火にあって焼失しましたが、延宝7(1679)年、菅村の領主であった中根氏が当社を管理している法泉寺に田畑を寄進して再興しました。子之神社の本殿は、平成8(1996)年に市の重要歴史記念物に指定されました。



玉林寺

安土桃山時代に創建され、藏雲和尚により開山されました。当寺では、市の重要歴史記念物に指定されている釈迦の臨終に集まる諸仏や鳥獣が描かれた「紙本着色仏涅槃図」(しほんちゃくしよくねはんず)が所蔵されています。



常照寺

明応6(1497)年に賢智和尚により開山されました(諸説あり)。常照寺では、市の重要歴史記念物に指定されている「紙本墨画着色松寿弁才天図(しほんぼくがちゃくしよくしょうじゅべんざいてんず)」が所蔵されています。



妙楽寺

平安初期に建立された長尾山威光寺の旧跡と言われています。また、「あじさい寺」として有名で、毎年6月にはあじさい祭りが行われ、境内一面には色鮮やかなあじさいが咲き誇ります。



諏訪社

文治3(1187)年に稲毛三郎重成が創祀したとされています。拝殿前の木箱にある護石を病氣平癒などのお護りとして持ち帰り、祈願成就したら石の数を倍にして祭礼の日には奉納するという習わしがあります。



枅形城跡

稲毛三郎重成の居城であった枅形城は、枅形山の頂上にあつたといわれています。山頂は桜の名所で開花期には大勢の花見客で賑わい、平成7(1995)年には城跡地に展望台が建設されました。



多摩水道橋

戦前からあった「登戸の渡し」という渡船が廃止され、昭和28(1953)年に旧多摩水道橋が建設されました。その後、世田谷町田線の拡幅にあたり、片側1車線だった橋が2車線のアーチ橋として改築されて、平成13(2001)年に現在の多摩水道橋が完成しました。



明治大学
平和教育
登戸研究所資料館

戦前に風船爆弾や生物化学兵器の開発、秘密戦や謀略戦と密接に関わった陸軍登戸研究所の歴史を後世に伝えています。

